栽培のヒント

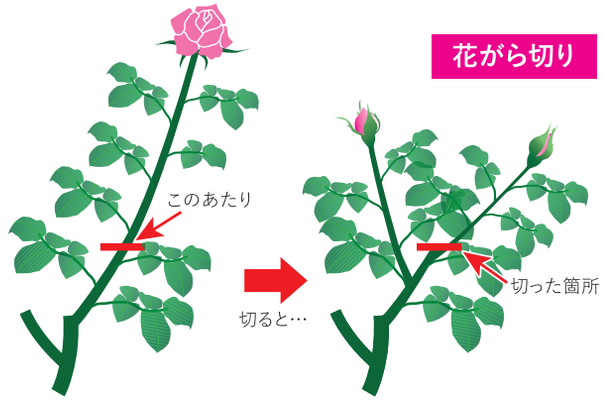
【美しく咲かせるには株を育てましょう】

良い株に良い花が咲きます。根が張り、充実した枝から良い花芽も生まれます。
そのためにも、まずは「株を育てる」という意識を持ってお世話をしてみてください。
株が育つと、きっとそのバラ本来の美しい花が咲いてくれるでしょう。

【花がら切り・・・5枚葉の上で切る】

株が育つと四季咲き性のバラは春から秋まで花を楽しめます。花が終わったら、すみやかに「5枚葉の上で」花がら切りをすることで次の花が咲きます。
外側に向かっている芽を選ぶのが理想ですが、見つからない場合は、横芽や3枚葉でも充実した芽を選びましょう。芽の上、5〜8ミリのところを切ります。
一般的には、「その枝の5枚葉を2〜3枚残して切る」と言われますが、だいたい花枝の真ん中より若干下の5枚葉と考えて下されば結構です。

花がら切り



花枝の半分より下の
五枚葉の上で切ります。

芽の上で切ると、脇芽が伸びて
次の花が咲きます。

【新苗のピンチ（摘蕾）はとても大事！】

春に新苗を購入された場合、成長期の8月末までは蕾を見つけたらなるべく早く摘み取り次の芽を早く出して、シュートの本数を増やしていきましょう。9月に夏剪定をし、秋の花から楽しむと、花数も多く美しい花をご覧いただけます。

【シュートの処理・つるバラの誘引】

つるバラの長く出た枝（シュート）は、可能な限り垂直に支柱に結び付けておきます。冬になったら、その枝がなるべく横になるようにつるバラの誘引を行います。横にすることで花数も増え、下の方まで花を咲かせることが出来ます。

つるバラの誘引

枝先は横に誘引すると
花が沢山咲きます

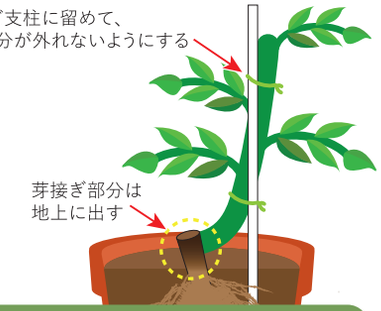
Aihara Rose Garden
有限会社 i-rose
〒790-0053
愛媛県松山市竹原2-11-13
Tel：089-931-5588
Fax：089-931-0567

Aihara Rose Garden

基本のバラの育て方

バラ栽培へ向けて

芽接ぎの部分は取れやすいので注意して、なるべく早く地植えか、大きめの鉢に植え替えてください。
植え付けの深さは、接ぎ芽部分が地上に出る位の深さが適当です。
1日4時間以上陽の当たる、風通しの良い屋外に置きましょう。
病気の発生も少なくなります。



	鉢植え	地植え
特　徴	定期的な水やりが必要。移動が容易で、コンパクトに栽培出来る。大きめの鉢に植えつけ、土替えを定期的に行うことなどで、美しく咲かせる事が出来る。	しっかりと根が張り、本来の美しさを発揮しやすい。根が張るにつれて、水やりが要らなくなる。
植え付け	**植え付け直後は、底まで十分水が行き渡るようにたっぷりと与えましょう。**	
	【おススメのサイズ】 木立ちバラ 8号鉢以上　つる性バラ 10号鉢以上 鉢底に水はけ用の鉢底石などを敷き（バラの専用鉢の場合はなくても可）、バラの培養土を入れます。	一般的な株間として、 木立ちバラは80cm、つる性バラは2m程度離しましょう。
土づくり	**当店オリジナルのバラの培養土を使うと安心で便利です。**	
	赤玉土（小粒）2/3、堆肥1/3程度が基本です。 鉢が大きい場合は、鉢底石も水はけに有効です。	地面に穴を直径60cm×深さ60cmほど掘りましょう。 大変ですが、出来るだけ大きく深く掘ってください。 堆肥を土壌の1/3ほど混ぜ合わせ穴に戻します。
水やり	**蕾が上がり始め花が咲くころに一番水を欲しがりますのでご注意ください。**	
	底から水が流れ出るくらい与えます。土の表面の乾きを目安としてください。水の与えすぎは根腐れや根を甘やかす事になり、乾燥に弱くなるなどの原因になります。	根付くまでは根を乾かさないように、与えるときはたっぷりと与えましょう。根付くにしたがって、水やりの回数を減らしていきます。
肥　料	**植え付け後、2週間ほど経過してから施肥をスタートしましょう。 蕾が小豆大になったら施肥をストップし、花後再開します。**	
	有機の固形肥料が安全です。製品の使用方法に従って、最初は少な目から始め失敗を防ぎましょう。	株から30〜60cmほど離した場所に3箇所程度に分けて与えましょう。製品の使用方法に従ってください。
マルチング	植えた植物の地表面（株元）を堆肥などで覆うことで、雑草の発生を防ぐほか、水分の蒸発や病害虫の発生を防ぐことができます。堆肥を7~8cmの厚さに敷いてください。根を暑さ寒さから守り、生育も順調になります。	
消　毒	薬剤は基本的には予防的薬剤を通常使用し、病気を発生させないことが大切です。病気が発生したら治療的薬剤を一時的に投入すること、2〜3種類の薬剤をローテーションで使用することで、病害虫に薬の耐性が付きづらくなり、効果が上がります。散布を行う際は、葉裏を中心に全体をまんべんなく丁寧に行うことが重要です。	